

# わが国の複合死因データによる死因間の関連分析

## Analysis of Relationship among Causes of Death Using Multiple Causes of Death Data in Japan

石井太<sup>1</sup>・林玲子<sup>2</sup>・篠原恵美子<sup>3</sup>・別府志海<sup>2</sup>・是川夕<sup>2</sup>

(1.慶應義塾大学, 2.国立社会保障・人口問題研究所, 3.東京大学)

Futoshi Ishii<sup>1</sup>, Reiko Hayashi<sup>2</sup>, Emiko Shinohara<sup>3</sup>,

Motomi Beppu<sup>2</sup> and Yu Korekawa<sup>2</sup>

(1. Keio University, 2. National Institute of Population and Social Security Research, 3. Univ. of Tokyo)

ishii-futoshi@keio.jp

現在、人口動態統計では、死亡診断書に記載されている複数の死因から、世界保健機関が勧告する「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」に準拠し、直接に死亡を引き起こした一連の事象の起因となった疾病もしくは損傷等を表す単一の「原死因」を用いて死因統計の集計・分析を行っている。これは、一連の病的事象を起こす原因を防止するという公衆衛生的な観点に基づくものであるが、一方で、現在、わが国では生活習慣病が死因の上位を占めるに至り、一人が複数の疾患を抱えることも多くなってきていることから、原死因以外の死因に着目する必要性が高まっている。

しかしながら、人口動態統計死亡票の原死因以外の複合死因情報については、わが国では、近年、はじめて二次利用が可能となったところであり、国内における人口学研究においては、このような複合死因データを全人口ベースで取り扱った経験が必ずしも多いとはいえない状況にある。一方、諸外国においては、従来から複合死因のデータの活用事例が存在している。

本研究は、国際的な複合死因に関する研究ネットワークである **MultiCause Network** において用いられている複合死因データによる死因間の関連分析の方法論をわが国のデータに適用し、わが国における死因間の関連状況について研究することを目的として行う。

具体的には、一原死因あたりの死亡数や死因間の関係を示す指標として、年齢構成の違いを調整し、複数時点や異なる人口間での比較が可能な人口学的指標として **MultiCause Network** グループが提案している **SRMU(Standardized Ratio of Multiple to Underlying Cause)**と **CDAI(Cause of Death Association Indicator)**を用いて分析を行う。**MultiCause Network** グループはこれらの指標を含む標準的指標の作成方法に関するガイドラインをまとめており、本研究では、このガイドラインに沿って標準的指標を作成し、死因間の関連分析を行う。当日のセッションでは、これら作成された標準的指標、特に、**SRMU**と **CDAI**の観察を通じて、各原死因に対し、死亡診断書に現れる関連死因との関連に関する特徴などを報告することとしたい。